

試聴会・訪問記掲載

上新電機オーディオ試聴会 (2017.3.5)

—トライオード新製品—

1. はじめに

上新電機日本橋 1 番館で開催されたトライオード新製品試聴会に行ってきました。
新製品 A 級真空管パワーアンプ TRX-P88S と真空管プリメインアンプ Luminous 84 を中心にフォノイコライザーアンプ RX-EQ6 を組み合わせての試聴会が行われました。

2. 使用機器

パワーアンプ：トライオード TRX-P88S

プリメインアンプ：トライオード Luminous 84

フォノイコライザーアンプ：トライオード RX-EQ6

マルチメディアプレイヤー：カクテルオーディオ CA-X40

スピーカー：Dali Epcon 8





3. 試聴会の進行

最初に試聴システムの紹介があり、時間を費やしてカタログを見ながらの[トライオード製品](#)の説明がありました。また、トライオードが扱っている、極めて多機能なカクテルオーディオの[マルチメディアプレイヤーCA-X40](#) やスペンドールのスピーカーの紹介もありました。詳細はそれぞれの関連サイトをご参照願います。

デモの最初は Luminous 84 を使用して、CA-X40 からの女性ボーカルとジャズでしたが、ディテールの再現は今一つながらウオームで説得力ある音でした。次に USB 入力かどうかということで外付け HDD からジャズと石川さゆりがかかりましたが、ハイレゾ音源ではないにも拘わらず説得力ある音でした。

ここでアンプを TRX-P88S に交換し、フォノイコライザーアンプ RX-EQ6 からの入力でアナログの試聴に移りました。プレイヤーは DENON でカートリッジは DL103 です。カウント・ベシーとサラ・ボーンのアナログ盤は、古い盤の粗らさが出ない音でした。アンプはそのままで、再び CA-X40 からの石川さゆりの再生となりましたが、プッシュプルからシングルに代わったにも関わらず、先の Luminous 84 よりストレートな力強さが感じられました。

さらにアンプを Luminous 84 に戻してアナログということで、ルイ・アームストロングがかかりましたが、先程と同様、古い録音の盤の粗が出にくい再生ぶりでした。ここでアクセサリーのデモに移り、T-TOC の [High Definition Disk Case](#) による、ケイコ・リーの CD の処理前後のデモが行われました。未処理では普通のマイルドなボーカルが、一聴してベールが剥がれたように透明感が向上することが分かりました。最後に

タンホイザー序曲がかかりましたが、ソフトで聴きやすい音ながら、今一つオケのディテールの再現には不満が残りました。

終了してから、先程の CD の High Definition Disk Case (写真左) の結果に興味を覚えましたので、デモで使用されなかったアナログ用 High Definition Disk Case (写真右) のデモを所望し、先程のタンホイザー序曲を処理してもらったところ、ディテールの再現が向上し、カートリッジのトレース能力が向上したかのような印象でしたので、即購入しました。自宅でのテストの結果は別途報告いたします。



結果としては、トライオードのアンプの音作りの傾向が分かりましたし、極めて多機能なカクテルオーディオのマルチメディアプレイヤーと銘打つ CA-X40 はこれからのプレイヤーのあり方を示すものであることも分かりました。新製品のアンプよりアクセサリーの方に興味が行ってしまいましたが、音源としては DSD その他ハイレゾ音源やもっとクラシックを聴かせてもらったら、アンプの実力を把握できたと思います。

以上